



謹啓時ふ年候不順

鳥起居立血停清釋

年大賀良

長安芳好長者譲員良

聖の得：就の年 炊

内配立り王待下女全

朽木ニ譲る事もお成良

崎市、日志、和常ニ感

佩在也百朽おし、昔尾能

尚此迄、今、日市ニ於ける家不

芽生えおの一派、生年を思懐し

随この旨全体、我々の場力

を擴張するの便宜を得べしと



随ての旨全体に我々の勢力
を擴張するの便宜を得べしと
解存す

佐野の長老諸氏は先づ
租甲上三戸を通じ各人の
競争を止め、先づ大石

太郎の同志の多寡は儘まらば
さ見取の事なきは意ぬも八
故甚八身取の理心を起し

頗る運勢を為め同志中も
所会所は先づ下村、同國
の希望者起り、四人の調停

所底其望無之、口を塞ぎて
大石と八坂とを調停し、調停が
一つに纏め、存し、種々手を

おし、はた八坂一派の者も
我々のみ申張り、所底調停

一ツに纏め交と存し種々手を
おし、はたハ坂一派の者もハ
我儘のみ申張り所存預知
の望乞之さりきこへるの交言ハ
ハ坂を助くるも多取を得るの見
込乞之、はた最子大石を助くる
の外乞之と存、中故昨ハ所慮信
を以てゆく間はら、に却一ある
大石と申據外は、この統旨而是
中つたる次方、序正片有、大石
直樹子と伊丹保太郎ハ、中ハ
即ちうな致致、取られども
直樹子ハ、競争と申りたる以上ハ
必瓦三葉権せらるべく伊丹ハ、自
下平都ニ席立多分際遊遊也
母おはさるべしとは申し、る
先以多良の新喜と西郷藩の

直樹子と伊丹保太郎の
所はうの秋葉、秋の
直樹子の競争とありたる以上の
必る三葉権せらるべく伊丹の
下平都の端立多分路邊邊
旧館はさるるしとはあし
先以多良の新喜と西郷の
西郷夫人、伊丹の
七秩大石の縁とありたる
各山之事務持陳はる
の山守長 忍性家具

五月九七日

武富時敏

大隈老伯閣下

侍者